

103-292

問題文

28歳女性。1ヶ月ぐらい前から動悸、手指の震えがあり、発汗が多くなったため近医を受診したところ、バセドウ病と診断され下記の薬剤が処方された。

(処方)

プロピルチオウラシル錠 50 mg 1回2錠 (1日6錠)
1日3回 朝昼夕食後 28日分

問292

患者への説明として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 催奇形性の報告があるので、薬剤服用中は妊娠を避けるよう説明する。
2. 甲状腺ホルモンの分泌を抑える薬であると説明する。
3. 規則的に数ヶ月間服用し、症状が改善したら減薬できると説明する。
4. 海藻類を積極的に摂取するよう説明する。
5. 定期的な血液検査の必要性を説明する。

この問題は正しい選択肢が3つあるため、いずれか2つを選べば正解となりました。

問293

服薬を開始して2週間後に38.5℃の発熱と強い咽頭痛を認めたため受診した。血液検査では、赤血球数 $390 \times 10^4 / \mu\text{L}$ 、ヘモグロビン 12.2g/dL、白血球数 1,000/ μL 、好中球数 350/ μL 、血小板数 $44 \times 10^4 / \mu\text{L}$ 、CRP 6.7mg/dLであった。

本症例の今後の薬物治療として適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 処方薬6錠/日を継続しながら抗菌薬を追加投与する。
2. 処方薬を3錠/日に減量して、抗菌薬を追加投与する。
3. 処方薬を一旦中止して、発熱が消失した後に再開する。
4. 処方薬をチアマゾール錠に変更する。
5. 処方薬を中止する。

解答

問292：2, 3, 5問293：5

解説

問292

プロピルチオウラシルは、ペルオキシダーゼ阻害薬です。甲状腺ホルモンの合成と分泌を抑制します。検査値を見ながら用量を変化させていきます。副作用が多く知られており、定期的な血液検査が必要となります。

以上より、正しい選択肢は 2,3,5 です。

問293

好中球数 350/ μL とあり、500/ μL 以下なので、無顆粒球症です。薬物治療を即座に中止します。以降の治療は薬物治療以外の方法であるアイソトープ治療や外科的治療へと移行します。

以上より、正解は 5 です。

